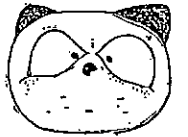


血液検査

と食卓

理事長・田中稔

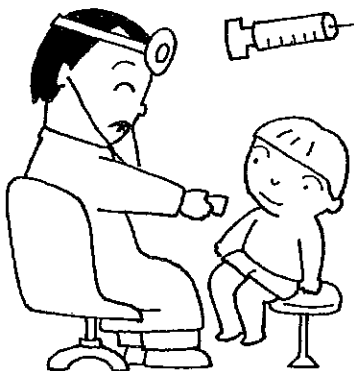
入園生の健康管理の一環として血液検査を行いました。一般の方々が職場等で受けておられる程度の健診は今後とも毎年実施することにしております。今回の検査でいくつかの事が分かりました。入園生の大部分は二十歳前後です。肝機能に異常値が見られる人がおられます。又、高脂血症（血液の中の脂質が多い）の傾向のある人既に何人かおられます。肝障害、高脂血症共に体重の増加が合わせて見られるケースがあります。肝障害のある方と各種薬剤との関係にも十分注意しなくてはなりません。薬の中には外せないものもありますから少々厄介です。その他、貧血、アレルギー等、経過を注意



NO 7
S62、12月25日
一発行一
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TEL096
293-8100

しながら見なくてはならない人もおられます。普通の人の様に自ら、自分の体の変調、健康の管理ができにくい子供達の健康を先手で、維持管理する為にも総合的な体のチェックが必要と考えております。子供達の日常生活の中でできる事として健康増進の為に「体作り」「体重管理」「食事のカロリー」「塩分管理」は今から必要です。子供達の食事風景を見ておると、時間前から待ちきれずにうろうろしている子、食べかかりの遅い子、おかずを先に食べて御飯だけを後から食べる子等様々です。食事の場面は子供達にとっては楽しい場ではなくてはなりません。同時に職員にとっては大事な療育の場でもあり、健康とも結びついた場でもあります。食事はまず食べてくれないと困ります。次には

「楽しんで」「味わって」「良かん」で」「選んで」「清潔に」食べてくれる様になって欲しいと思います。食べる事で良しとする食事では肥満の問題等は良くなりません。適切な食事を適量取る事が大切です。養生園の竹熊宜孝先生は「医食同源」という考え方から「カロリー」「水」「塩分」「砂糖」「人工調味量」の五つの重要性を「病は口から」という講話の中で話されております。食事についてもまだやるべき事がたくさんあります。食事の場の大切さを職員一同、再確認しているところであります。バランスのとれた健康的な体から新しい能力が引き出されることを期待しております。



療育シリーズ

NO7

園生のナミダ

園長・土井尚典

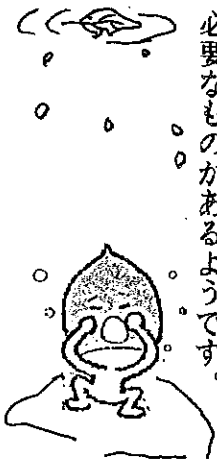
園生は時々訳もなく泣く事があ
ります。突然に大声で泣いたり、
涙がポロポロと出て来ます。「ど
うしたの」と聞いてもただ泣くだ
けです。ケガをしたり、お腹がい
たかったり、歯が痛い位ではめっ
たに泣きません。泣く程に悲しい
事がきつとあるのでしよう。

自閉症児は自分の気持を相手に
了解できるように表現することは
非常に不得手であります。言葉を
もっている園生でも表現できない
事が多く見られます。どうして表
現出来ないかを観察していると、
「どうして泣くのか自分でもわか
らない」場合が多いようです。一
緒に生活していると「この園生は
今日は泣くぞ」と予測がつくよう
になって来ます。つまり園生から
サインが出て来る訳です。実はサ
インは出て来るのでなく、出して

いるけどキャッチできなかつた訳
です。園生は大低の場合、サイン
として、こだわりくせ、常同行
動を強めて来たり、拵げて来ます。
園生の頭の中を何が支配し出し
その事で頭がいつぱいになる訳で
す。こうなると職員が話しかけて
もウワの空になります。問題行動
を規制するとパニックに移行し易
くなります。食事も食べなくなっ
たり、移動も困難になります。
そこで職員は頭の中を支配してい
る何かをさぐりにかかります。ピ
タリと当たると目が輝き反応して
来ます。はずれると全く無関心で
す。園生に園生自身が今何を考え
ているか言葉で問いかけることに
よって意識化させることを続けま
す。職員は「途中で中断させたよ
うな事はなかつたか」「手順を問
違えて指示しなかつたか」等と色
々考え問いかけます。どうしても
ぶつからない事があります。その
な時「家に帰りたいのでないか」
「お母さんに会いたいのではないか」
と言う仮説のもとに問いかけると

ピタリと当ることがあります。ウ
ワの空であった目が輝き出し、や
りとりができるようになります。
頭の中を支配していた事にもぐり
込め、言語化してやることができ
ます。お母さんがいつ迎えに来る
か、いつ迄頑張れば良いかを話す
ことによりガンバルことができる
ようになります。「帰りたいナミ
ダ」は走馬灯のように家に帰った
時の情景が頭の中にうかび、胸の
中を訳のわからぬ不安がいきかい、
自分は帰りたいのだとわからない
ように見えます。途中で中断さ
せられたナミダは数日後に自分で
突然続きを続行することにより解
決したりして、職員が「アッ」
とおどろきの悲鳴をあげ、すまな
かつたと思ったりもします。

園生のナミダには自分でいつか
解決できるものと、大人の援けが
必要なものがあるようです。



解維感

事務所だより

事務長・今福 斉

最近は馴れてきたせい、表情も穏やかになり、事務室に入ってくる園生がふえ賑やかなものです。仕事ができない時があるのは困っています。

中には指導員のいうことには、よく従っていますが私が近寄ると逃げような子供もおり、ちよっぴり寂しい気がする時もあります。この半年余、始めてのこと、何から手をつけてよいやら戸惑いながらの毎日、事務の整理もいまの状況です。

暑い夏の草刈り、農作業など馴れない作業で少々疲れましたが、これからはもう少し計画的に要領よく作業ができたらと思っています。もう少し園生が増えることを願っています。



親の会

九州協議会に

参加して

魚谷 郁子

去る十二月五、六日、沖繩で自閉症児親の会九州協議会が行われ私もその一人に参加させていただきました。

週末帰宅を予定している息子のことも気になりましたが、この時こそ父親の力を発揮してもらおうと留守中は父親と祖母に託して二十年前ぶりに羽をのびしました。

沖繩はあいにくの雨でしたが、同行の役員さんと時間の許す限り貧欲に遊覧も楽しみました。

五日夜から六日にかけての役員会は、はじめでお合いする沖繩県親の会の方々に温かく迎えられ終始なごやかでした。

来年六月に長崎で予定されている九州大会をメインテーマに全国協議会報告や各県の情報交換が行われました。そこで他県の施設作りについてもお聞きしました。

沖繩では五、六年前廃品回収や下

着販売をしながらも土地購入を目前にして会員の足並が揃わず施設を断念されたとのこと、鹿児島は物品販売と会員の出資で施設をめぐらしているが行政の壁が厚くなかなか実現にこぎつけないということでした。又、福岡の志摩学園は五十名定員のうち現在三十七名が入所、園生は金曜から月曜まで週末帰宅をしており、中には一人で電車で往復している人もいるとか、園の赤字は保護者のお茶販売でなんとか補っているとのこと。全国にいくつもある自閉症施設は会員の大変な苦労があったと聞いています。

同じように自閉症の子供をもつ私たちは何の苦労もなく三気の里へ入所させることができ、大変恵まれていることを痛感しました。他県のように私たちは生みの苦しみをこぞしていませんが三気の里が大きく育つようにみんなが応援しましょう。

“いとしい子供のために”

3 班 - “迎冬”

寒さと共に、山も遠のいてしまいます
 新しい作業にとりかかりはじめています。牛乳パックで紙すきをする手初めに、まずは紙ちぎりからです。パックの紙を細かくちぎっていくのですが、なかなか根気の要る仕事。それでもみんな離れることなく机に向かって居られるようになり、これならお正月の書き初めにでも…と思うこの頃です。午後は元気に農耕班と一緒に土運び。一輪車に土を山盛りにしないと気がすまぬ新ちゃん、コンテナで運ぶのりちゃん、調子いいぞ！何をやらせてもドンと来い啓三君、作業中、解体車に乗り“ドライブ行く”と思わず口走りひんしゅくを買いバツゲーム土運び10回の敬ちゃん、ちょっと一休み、がたびたび陽治君、まるで定期便のごとくひとつ飛びけんちゃん、そして一輪車でしっかり腰のはいった運び具合のあっ子ちゃん。17日には忘年会を開き、日頃の疲れを慰やし、“次ぎは新年会”などとまた、口走ったのは、まぎれもなくバツゲームの疲れをふきとばした敬ちゃんなのでした。冬寒し、わかっているも「あーさむか」

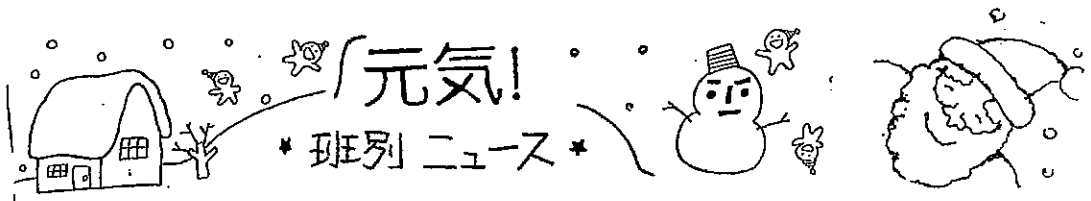
おそまつでした（小道）



4 班 - “師走を味わう”

師走ということで、誰もが池上さんの真似をして「あー忙しい、忙しい」と言っている12月17日4班は、“師走を味わう”という目的で市内に買い物にでかけた。おこずかいで、それぞれ自分の好きなものを買いました。あこがれの眼差しで鶴屋を見詰めていた典浩くんはぬいぐるみ。マクドナルドに入りめちゃめちゃうれしそうだった誉征くんはサイフ。黒のジャンパー、白いズボンでばっちりきめた創くんは、パズル。書店で週間テレビガイドを見つけて“これこれ”と満足そうだった和久くんは、カレンダー。下通り、マクドナルド、サンリオショップなどで、計7回も前転をした方紀くんは、フェリックスくんのコップ。何をかくそう、この日を指おり数えて待っていた忠夫くん、迷って迷ったあげく選んだのが、パトカーのおもちゃ。皆、大事そうに持ち帰りました。レストランでの食事は、豪華な割には一瞬のうちに消えてしまい、園と違いおかわりがないので水を何杯も飲んだり、新聞を探したりと、思い思いにくつつろぎました。この日、残念ながら師走を味わえなかった文彦くんと勝己ちゃんには、雑誌とキャンディーをお土産に買って帰りました。

お買い物学習が楽しくなり、今度は全員そろって行きたいね。（坂本）



1 班 ・ 僕たちのペンション体験

冬の寒さが本格化した12月3日、僕たち1班は、阿蘇のペンションほんにやら村ってところへ行たんた。三気号に揺られて30分、着いた所は森の中。細い道を歩いて行くと…あった！山小屋風の建物が3つ。とうとう着いたぞ！ところで僕らは何をしに行ったんだっけ？そうそう団子汁を作ったんだよね。大根、にんじん、里芋、こんにゃくetc。いりこでとっただし汁にちぎっては投げちぎっては投げ…。味付け担当は、おなじみ肩パットM指導員、あっさりとしようゆ仕立てにしてコトコトコト。さあできたぞ「合掌、いただきます。」ホクホク、アチアチ、ズズーッ。うーう、うまい！自然の中で、自分たちで力を合わせてつくったんだ、その味といたら格別だったよ。今日は、しゅんちゃん、しげちゃん、ゆみちゃんと一緒に行けなかったけど、次に行くときは、きっとみんなで行くんだ。そして、もっともっとお料理の練習をして、お父さんやお母さんにもごちそうしてあげようね。最後になりましたが、僕たちに、素敵な体験をさせてくれた、ほんにやら村のオーナー川尻昭先生、ありがとうございました。（平川）

2 班 ・ クリーンプロフェッショナル

子供達と一緒に作業を始めて、早くも半年が過ぎました。最初は指導員も子供達も慣れない為に、お互いに動きが分からず、気がつけば指導員だけが掃除をしていた、と言う事もありました。でも、慣れて来たら子供達も、「今は作業の時間だ」と理解し、皆で一緒に行動が出来る様になりました。雨の日も晴れの日も、毎日々々、同じ事の繰り返しの中で、子供達も色々な事を楽しみにしたり、自分でもっと簡単な方法を見つけていった様です。

皆、泡が立つのが好きで、洗剤が一日で無くなった事もありました。K君やU君、それにA君は特に泡が好きで泡が立つ程に作業を頑張ってくれます。M君、Kさんは、今では皆に「ここを洗って」「水を撒いて」と、指導員の代わりにしてくれます。H君等は歌を口ずさみながら作業をやる余裕が出てきました。I君は壁に水を撒く時、自分が濡れない様にと、水の入った洗面器を壁にくっつけた壁の汚れを落としています。Nさんはマイペースに徹して細々としてくれます。K君もB君も、スポンジに石けんをつけれる様になりました。

皆、それぞれに楽しみを持って、これからも、三気の里がきれいになる様、頑張ります。（上村）

ただ今

食堂営業中

「雨の日曜日」

11月29日、日曜日、雨のちくもり。六名が園に残っていました。

この日、三気の里食堂は、活気がなくいつもの明るく元気な姿が見られませんでした。下痢とおう吐を伴う風邪のため、数名の子が具合が悪かったです。せっかくの日曜日、お弁当持参のドライブも中止となり、園で静養することになったのです。そのため、朝食をおじやにしたり、昼食のお弁当を取りやめ、うどん・りんごなどの消化が良く子供達が好きなものに急拠献立を変更しました。私達の心配はよそに、おいしそうに食べてくれたのでホッとしました。夕食はおかずに注意を払い、ふつうの米飯を出し、Y君だけおかゆだったのですが、「おかゆ食べない、ごはん食べる」と言って、なかなか食べてくれません。これから先も、こんな事がない

とは限りません。その都度慌てることなく適切な対応をしていけるよう努力していきたいと思えます。

さらば一八二一年

無我夢中の一年が過ぎようとしています。「しっかりと目標をもつて」と自分に言い聞かせて年の瀬まできました。まだまだ三気の里は生まれたばかりです。ガンバラナクツチャ。園長 土井尚典

とにかく8ヶ月間必死でやってきた。戸惑いや失敗も数多くあったけど、何より楽しみながら仕事が出来た。来年は、もう少し仕事にゆとりを持ち、現状に満足することなく前進あるのみ！(興呂木) 皆に会えて良かったです。来年もよろしく。(小道)

園生と出逢って8ヶ月が過ぎました。わからない事ばかりで、いつも失敗の連続で、回りをいつもハラハラさせていた様です。

来年は、そんな事が無い様に、努力したいと思えます。(上村)

あれや、これやとあたふたして、いるうちに“師走”となってしまう。今は、山でしている木の皮むきも、運動場でしていた頃が懐かしい。来年も“初心忘るべからず”でがんばる！それでは(ちかこ) 私がこの数ヶ月で、みごとに奇麗になったように？、子供達も、あのかわいさに輪をかけて、かっこよくなり、まぶしいほどになりました。来年は、ぜひほれほれるほどの大人になってほしいですね。(坂本)

あつという間に今年もおわり、三気の里に就職してあつという間8ヶ月も過ぎました。ほんとにあつという間で、よおし、がんばるぞー！これからも一緒にがんばらせて下さい。(せいこ)

私の今の最大の関心事は、農耕班の荒地への土運び作業が年内に終るかどうかです。園生八人一人一人が一杯づつ一生懸命運びました。新年を迎えるのが早いか土運びが早いのか？それは見てのお楽しみです。(木下)

毎日24時間ではたりないと思ひながら8ヶ月がたち、体力があつてよかつたと実感しています。

来年もみんなの笑顔に励まされながら一歩づつ進んでいきたいと思ひます。(あかね)

なんだか皆とずっと一緒にいたという感じがします。みんないい人、いい友達ばかりです。それなのに、人が失敗したり、おもしろいことをするとまねをして遊んでいる私を笑つてゆるしてね。

(ちぐさ)

—8カ月たつて、長いようで短かいような短かいようで長い8カ月間でした。素敵な人達にいっぱいめぐり逢えたし、とても充実した時を過ごせました。来年もみんなにとつていい年であますように。

(橋本)

気づいてみたらもう8ヶ月たつていたというのが正直な感想で、何も知らずに飛び込んだ世界は奥が深く常に壁にぶちあたり、悩んでばかりで進歩がないが、まだ8ヶ月と思えば前進するかな?

(田之上)

思えば始めのころは、仕事におわれ時間に、仕上げるのが精一杯だった。来年は、心にゆとりを持ち仕事に、まごころのひと味をきかし努力有るのみです。一歩後退二歩前進、若さでがんばります。

(大塚)

三気の里での8ヶ月。苦しくも楽しい毎日で、充実したものでした。おかげで体もダルマのように充実！手も足も出ないダルマではなく、何度転んでも起き上がるようなダルマでありたいと思ひます。

(平川)

月日が流れるのは本当にはやくそれとは逆に仕事に慣れるのがおそく毎日毎日が新鮮で、というより苦闘です。大げさになりましたが、本音はまだまだ先きは長いぞ、負けずに頑張るしかありません。

(多田)

年の瀬・師走を迎え、私も理由もなく突っ走っています。子供達とがむしゃらに取り組んで来た年でした。来年もやっぱり突っ走りたと思ひます。楽しい三気の里を作る為に！(坂井)

もう8ヶ月たつていたので、毎日忙しくて、変化に富んでいて、時がたつのも忘れていたという感じでした。来年は、もっと楽しくゆとりのある仕事をしたと思ひます。岩本真利子ががんばります。

三気の里が完成し早、八ヶ月過ぎました。早いもので最初に子供達の態度を見てどれだけ作業が出来るかが不安でした。しかし、見事なチームプレーで公園も完成し作業も見事なものです。砂野征三

“厨房のお姉さん”と呼ばれる事8ヶ月。とにかく忙しい毎日だった。最近、ようやく前を見るゆとりもでき、来年こそは、仕事に流されず何かを残してみたい。お姉さん、頑張ります。(帆保)

あつという間に過ぎてしまった8ヶ月！時間が過ぎるのは早いなの一言です。今年の反省を元に来年はもっとがんばろう！(武藤)

あつという間の8ヶ月！早い様でいて又短い様な複雑な心境です。来年も子供達と一緒に笑い転げながら楽しく過ごしていきたいと思ひます。(山中)

順不同

HAPPY NEW YEAR

12・1月行事予定

12月26日(土)～29日(火)帰宅週間
28日(月) 大掃除

12月30日(水)
～1月8日(金)
冬季・帰宅訓練日

1月2日(土) 七草粥・たこあげの集い
9日(土)～11日(月) 帰園週間
13日(水) 体重測定
14日(木) 1班・レクリエーション
15日(金) 成人の日・どんど焼き
防災非難訓練
21日(木) 2班・レクリエーション

23日(土) 保護者会・帰宅訓練日
職員会議
ボランティア学習会

28日(木) 3・4班・レクリエーション
動作訓練研究会・午後7時～

29日(金) 大掃除

お知らせ

正月の一時を七草粥を作ったり凧上げをして楽しみませんか。
園生、職員、ボランティアの皆さん参加は誰でも自由です。
日時：一月二日・10時より
場所：三気の里
会費：無料
(凧のある人は凧を用意下さい)

冬季・帰宅訓練日について

冬季帰宅は帰宅開始期間が12月26日(土)～29日(火)3時までをお願いします。
また帰園週間は1月9日(土)朝9時～11日(月)までをお願いします。
尚、12月30日(水)～1月8日(金)の冬季帰宅訓練日の間、けがや病気、その他こまった事が起こった場合には、いつでも三気の里にご連絡ください。
ご不明の点は担当職員にお尋ね下さい。

後援会・新会員紹介

東 信 幸・池 永 文 浩

新たに、2名の方々のご協力を
頂くことになりました。

本当にありがとうございます。

もちつき大会のお知らせ

来たる2月11日、(建国記念日)
に、白川保育園の子供たちを招い
てのもちつき大会をします。

私たちと一緒にもちを食べたいと
思われる方、もちをつきたいと思
われる方等々のご参加、ご協力
をお願いします。

編集集 後記

三気の里が開園した一九八七年
が暮れようとしております。早い
ものですね、本当にあつという間
でした。一九八七年三気の里、そ
してたんぼぼだよりを支えて下さ
いました皆様、本当にありがとう
ございました。

“よし、来年もがんばるぞ”
たんぼぼ編集部一同、坂井・大
塚・波多野。